

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会
時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫
両団体理事長 半 田 晴 久
交通部会長 松 本 治 男
専務理事 清 原 淳 平

交通部会のお知らせ (第274回)

日時 令和元年7月29日(月) 午後1時半～3時半
場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第2会議室
千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・南北線)①番出口より下車2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第2会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

- 議題
- 1、挨拶および激励
平沢勝栄衆議院議員、内閣府元副大臣、元外務委員長、
自民党・交通安全対策特別委員長
 - 2、最近の交通情勢について想う
挨拶 松本治男 交通部会長(元近畿管区警察局長)
 - 3、「道路交通法施行令の一部を改正する政令案」等に対する
意見の募集について
 - 4、交通事故統計(6月中及び7月28日まで)
解説 警察庁交通企画課 西村仁崇課長補佐(警視)

報告 去る6月25日開催の第273回交通部会は、松本治男部
会長が議長を務め行われました。

まず、松本部会長より、「最近の交通情勢について想う」と
題して開会挨拶がありました。高齢運転者による重大事故が相
次いでいる。その対策として、高齢者向けに安全装置付きの車
両に限定した免許の付与を検討している。また、自動ブレーキ
システムや踏み間違え防止機能を備えた安全運転サポート車の

技術開発も進んでいる。できれば、全車両に導入されるのが望ましい。東
京都では、踏み間違え防止機能の購入費用に9割補助する方針のようだ。

次に、警察庁交通局交通企画課落合大地課長補佐(警視)より、「令和元
年版交通安全白書」について解説がありました。交通安全白書は本年版で
49回目となる。この間の経過を振り返ると、49年前の事故死者数は1
万6765人で、現在はその約5分の1となっている。平成8年に1万人
を下回った。この間、シートベルト、エアバッグ、ABS(急ブレーキ時に車
輪のロックによる滑走を防止する装置)が標準装備されるようになり、車
両の安全性が向上した。平成16年には飲酒運転の厳罰化が行われるよう
になり、死者数はさらに減少、増え続けていた負傷者数も16年を境に減
少傾向に転じるようになった。来年の第10次交通安全基本計画に掲げる
死傷者数50万人以下という目標に向けて、平成の30年間常に上位を占
める交差点での事故減少を図る。住宅街などでのゾーン30をさらに拡充
していく。もう一つは、この50年間で10倍に増えた高齢運転者対策で
ある。自動運転システムの開発に取り組むほか、免許返納の推進と代替交
通機関の確保を進めていく。

次に、「交通事故統計(5月末及び6月24日まで)」について、解説が
ありました。5月は43人減少と大きく減らし、6月は24人の減少とな
り、部会前日の時点では1373人で180人の減少となっている。

この後、委員一同にて盛んな意見交換があり、以下のような意見が出さ
れた。◎信号機に携帯電話の基地を設け、道路管制に役立てるという構想
があるようだ。どの企業の基地にするかは慎重に検討したほうがよいが。
◎訪日外国人が増えてきた。外国人による交通事故発生件数はデータにな
いようだが、一部標識に英語併記を行うなど対策をたてているようだ。

★資料代 会員500円
次回、7月29日(月)の交通部会(参)に

出・欠 (いずれかに○印)

事務局宛FAX 03-3507-8587

御芳名

貴方様のFAX

電話

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(その際の会費は二千元となります。)